

# ミネソタ通信

発行：日本ミネソタ会（創刊号）  
発行日：平成2年6月10日  
発行所：〒241横浜市旭区柏町16-8  
遠山絃司 ☎045-362-1093

## ごあいさつ

日本ミネソタ会会長 高藤 昇

以前、ミネソタ会の席上で、どうしてミネソタ会の人達は仲がよいのだろうか、それに、例会のたびごとに、こんなに出席率が良いのはどういう訳なのだろうかと言う話が出たことがありますが、それはきっと、余りにミネソタの冬が寒くて長かったことから自然に寄り合って心を暖め合いたいと思ったことと、ミネソタ州の人達の温かい親切が皆の印象に殊の外強かったことによるのだろうということになったものでした。実際、アメリカに留学する人達の中でも、中西部のミネソタに留学先を選ぶ人達は、東部や西部に比べて余り多くはないと思います。しかしながら、一度ミネソタの土を踏んだ人達には、あのミシシッピ河や、数多くの湖の美しさ、遅い春の訪れと共に、一斉に花の咲き乱れる楽しさ、インディアン・サマーから突然、メイプル・ツリーが荘厳な黄金色に黄葉する短い秋、そして、零下30度の寒さの雪の歩道で、まるで馬の鼻息のように白く長く、大きく噴き出される女子学生達の高い鼻の可愛い顔や、今迄一緒に歩いていた友人が突然見えなくなったと思ったら、凍った雪の上で滑ってひっくり返っていた光景など、ミネソタで学んだ、又、過ごした私達でない経験出来なかった思い出が、私達の心から消え去りそうにありません。

私達が、ミネソタにゆかりのある人達を大同団結して、日本ミネソタ会を組織してから、もう6年以上経過しました。会員は300名に及ぼうとしております。加えて、昨年にはミネソタ州貿易局東京事務所がようやく開設されました。ミネソタ会も、新しく脱皮しなければならなくなってきたと思われまます。

私が会長をお引受けしてから既に4年を経過いたしました。その間、余り積極的にお役に立たなかったことを反省しております。しかし、ようやくここに、『日本ミネソタ会報』を、私の任期修了間際に発刊できたことは、皆さんとの結びつきを深めることが出来る一つの活動として喜びであります。この会報が益々内容ゆたかに、楽しいものになると共に、ミネソタ会自体が、単に東京だけでなく、名古屋、大阪、東北、北海道、四国、九州と全国におられる方々によって、支部の輪を広げていただきたいと思います。ミネソタとの交流も、これからは一層深まり、人々の往来も激しくなってくると思います。色々な機会を通じて、本会が有意義な活動を積極的に展開されるように祈ってやみませんし、会員の皆さんが、単にこの会合だけではなくて、それぞれの職業や、日常生活の中でも友好を深められるように願ってやみません。

最後に、皆様のご健康とご活躍をお祈りして、ご挨拶といたします。

(國學院大学常務理事)



## “ミネソタ州日本事務所を開いて”

ミネソタ州政府貿易局東京代表部  
駐日代表 山下 宏

ミネソタ州政府もようやく昨年12月に日本事務所を開きました。ようやくといたしましたのは、日本に事務所を持つ州としては40番目になります。しかし、スタートがおくられても、その活動は初めから活発です。東京と大阪で同時に事務所を開きました。大阪に事務所を持つのは、ミネソタとイリノイだけです。

対象となる仕事は貿易の拡大、相互の投資の促進、見本市、展示会への参加等の経済交流から、文化、教育、スポーツ、観光の支援まで幅広く考えられますが、当面重点をおくのは①ミネソタ州から日本への輸出の拡大、②日本の投資をミネソタ州へ導くことが時節から適切ではないかと考えます。

ミネソタ州代表部は東京ではハネウエル社が引受け、このハネウエル社事務所は渋谷におかれています。多くのアメリカ企業がそうであるように、ミネアポリスに本社をもつ、ハネウエル社は常に地元地域社会に貢献することを考え事業活動をしており、喜んで州活動の支援を引受けました。大阪ではE・C・Cという英語教育専門学校が代表を引受けています。

ミネソタトレードオフィスは年に3～4度トレードショーに参加しており、コンピューター、医療機器、科学機器、食品、建築資材から観光PRに至るまで業種は様々です。日本企業誘致セミナーも致しました。お陰様で米国商務省の調べによりますとミネソタ州の1987年～1988年の輸出は全米ランキング16位から15位に上がり、更に最新のデータでは12位まで浮上してきているようです。

輸出の70%はハイテク関係。その中でも50%はコンピューターです。ハイテク以外で重要な地位をしめているのは食品部門です。

ミネソタトレードオフィスの報告によると、ミネソタ州は1988年で対日輸出は全米の2% 6億300万ドル、コンピューターの対日輸出は全米の9% 3億8500万ドルです。ミネソタ州民総生産の伸びは全米平均より10%上回りました。

ミネソタ州の企業倒産率は全米平均の半分です。州の経済成長の成功の秘訣はまず第一に州民の労働水準の高さにあると思います。労働生産性は全米平均を9.6%上回ります。

更に皆さんご存じの通り全米平均より20%も安い電力、豊富な水資源、充実した交通網などが州の経済をさらに延ばしていると確信しています。

伝統的にミネソタ州はトップクラスの教育水準を誇り産官学が一体となり、より豊かで住みやすい環境作りに貢献するように考えてきました。その意味でミネソタの経済を語るにはフォーチュン500にリストされている18の大企業にも触れない訳には参りません。ミネソタ州の46%の就職はこの大企業が提供しており、全米平均の20%に比べるといかに多くの大企業がミネソタ州に集積しているかは明白です。

当事務所では、ミネソタトレードオフィスと密なコミュニケーションで結ばれ、バイキングのフットボールのニュースも、ミネソタ大学のバスケットボールチームの成績でも出来るだけとるように努力しています。ミネソタに住み、ミネソタを愛し、ミネソタをなつかしく思う人達だけではなく、いろいろな意味でミネソタと交わった皆様の力をお借りして、今後事務所の活動を、益々盛んにしていきたいと思っております。

(ミネソタ会総会の講演要旨)

~~~~~ 平成2年度、日本ミネソタ会総会開催さる ~~~~~

今年度の総会が平成2年4月22日(日)東京渋谷の國學院大学、院友会館で開催された。美しい新緑に囲まれた同会館に60名を越える方々が集い、当日の講演「ミネソタ州日本事務所開いて」を同事務所代表であると同時に、ハネウエル社副社長であられる山下宏氏からお聞きすることができた。

その後、懇親会にうつり、なつかしいミネソタに思いをはせたり、現在の仕事の話、これからの日米関係にまで話が広がり盛況のうちに予定していた3時間が終わった。

なお、当日はちょうど来日中の佐藤靖夫氏(ミネアポリスに20年近く生まれ、現在シカゴ郊外在住)や、ミネソタ州東京事務所秘書の宮崎和子さんも出席され総会に花を添えた。



## “その頃・あのころ・この頃”

秋田 嘉徳

### 1. ナイフ・フォークの持ち方

「政治」は何流とかでも「経済の方は超一流と言われる今日この頃では、まるで嘘のような話。

G H Qによる占領時代が形の上でやっと終り、戦時中には「敵性語」と呼ばれて見向きもされなかった英語によるテスト、その他をかろうじてクリアーして、フルブライト奨学資金による渡米、留学があと何日かに追っていた頃、私たちのオリエンテーションの一環として米国大使館の構内だったかで、ナイフ・フォークの持ち方をはじめ、コップの水、スープの飲み方など、もろもろの米国式マナーの基本の手ほどきを受けた。指導役は、おそらく当時の米国大使館などに関係のある米国のご婦人方であったように覚えている。

女性が隣にいらしゃる時は、自分が椅子に座るまえに、先ずもってその女性の椅子をアレンジしてあげること、パンは大口をあいてパクついてはいけない、食事は楽しくするものゆえ、出来るだけ明るく楽しい話題をえらんで途切れないように・・・等々。当時の若い日本男性なら大かたは軍役に引っぱり出されて、飯盒の飯をできるだけ短時間にかき込むといった、「効率的な」習慣が身につけていたはずだから、この実地訓練は、つたない英語を用いての会話の話題はもとより、いずれもきわめて印象的ではあったが、なかなか身に付けられそうもない、いわば難題であった。実をいえば、筆者は今もなをこの難題を克服してはいない。

### 2. 「ここだけだぞ」

当時の「留学生」は、既婚者の場合でも男女を問わず、ほとんど単身者であったが、しかし、ごくまれにご夫婦お揃いで留学、渡米されるような、われわれから見るとまことに羨しいケースも絶無ではなかった。

それは渡米直後の研修地、カリフォルニア州のことであったか、またミネソタ州のどこかであったか、周辺の米国人ボランティアグループのご好意で催された歓迎パーティー場の入口でのこと。羨しき限りの日本人留学生ご夫婦が着て来たオーバーを脱いでハンガーにかける場面、ご主人留学生は先ずもってご同行の賢妻留学生のオーバーを脱がせてやりながら、周辺われわれにも聞こえよがしに、

## “続基礎英語を聞いてみよう”

N H Kラジオ第2放送の『続基礎英語』でミネソタ州出身の Miss Mary Akimotoが美しいミネソタ英語で活躍しております。ぜひ一度聞いてみては。放送は朝 6:20-6:40 午後 14:20-14:40、夜 18:20-18:40の一日三回。

しかし「囁き」の意味をもこめて曰く、「オイ、こんなことをするのはここだけだゾ！」

### 3. 日本語のにわか「センセイ」

キャンパスのすぐ近くにわれわれ外国人学生が気軽に利用できるカフェテリアがあった。何回か出入りするうちに、そこで今風に言えば「パートタイマー」で働いていた2, 3人の米国人女性と顔見知りになった。

その人たちからある日、「日本語を勉強したいので、センセイ（もちろん”Teacher!”）になってくれないか？」と真剣に頼みこまれ、全く自身のないままにそれに応じることになってしまった。事情を聞いてみると、いずれもご主人が新教派に属する布教師で、数ヶ月後には日本へ行って宗教活動に従事するという予定だとか。

あり合わせの紙で手製のカードを数十枚作り、それにいわゆる「五十音図」をローマ字とひらがな・カタカナで書きつけて、にわか仕立ての「センセイ」をつとめたが、「生徒たち」は実に熱心に学習してくれた。

帰国後も何年間か、これらの人たちとの交流が続いたが、その間の彼らの日本語の上達ぶりはまさに驚くばかりであったように思う。外国語を習得する際の「意欲」”Motivation”がいかに重要か、という判りきったことではあるが、今もボランティアとして時折海外から来る日本語学習者の「センセイ」をつとめてその頃のことを思い出される。





## “日本ミネソタ会の歴史”

(幹事 遠山 紘司)

ミネソタ州で生活したことのある人、ミネソタ州に関心のある人の親睦団体を作ろうという気運が盛り上がり、当面、発会式をしようと東京地区に住む人が中心になって会合を開いたのが昭和59年7月22日(日)であった。発起人には武市英雄、中村正吉、沖田哲也、伊藤定祐、森忠利、西田司、遠山紘司の7名が名を連ねた。場所は東京、港区南青山の南青山会館であった。

当日は天候に恵まれ、大人52名、子供6名合計58名が出席された。中村正吉氏を初代会長に選任した後、副会長2名、幹事5名を選び、会の名称を「日本ミネソタ会」とすることを決めた後、発会へのメッセージが読まれた。

メッセージをいただいた方々はミネソタ州知事 Rudy Perpich, 日本名誉総領事 W. Soren Egekuist, ミネソタ大学学長 Stephen W. Roszell, ミネソタ大学留学生事務所長 Joseph A. Mestenhauer, ミネアポリス市と姉妹都市の関係にある大阪府茨木市長 重富敏之の各氏等である。

その後、昼食やビールを飲みながら久しぶりにミネソタに思いをはせたり、今後のミネソタ会の方向を語り合い3時間の日本ミネソタ会発会式と第1回総会を終えた。

以後、2回の幹事会を経て昭和61年1月18日(土)午後5時から8時まで東京、神田の明治大学で第2回総会を開催。出席者48名。日本ミネソタ会の規約を承認した後、新役員として高藤 昇氏を第2代会長に選び副会長5名、幹事5名を選出。

本会の目的は「ミネソタ州との親善、情報の交換ならびに会員相互の親睦を図ること。」とされ、英文名称をJapan Minnesota Association とすることが決められた。また、目的を達成するために1. 会員名簿の発行、2. 会報の発行、3. 会員の親睦会など6項目(詳しくは名簿の最初のページを参照)の事業を行うことが定められた。

また、新しい試みとして「総会では講演会を開催したら」という意見にそって、第1回目として放送大学教授祖父江孝雄氏の「アメリカ文明のなかのインディアン達」を催した。

第3回総会は昭和62年5月16日(土)13:30~17:00まで南青山会館で開催。ミネソタ大学教授バイロン・マーシャル

氏の「ミネソタの文化」の講演を聞いた。

第4回総会は昭和63年11月3日(文化の日)13:30~18:30まで國學院大学院友会館で開催。ミネソタ大学留学生事務所長、メステンハウザー教授の「最近のミネソタ」の講演。

そして、第5回総会をこの4月22日(日)に開催した。その間、年2~3回の幹事会が開催されたり、ミネソタからの派遣団や関係者が来られると総会とは別に会合が持たれている。

会報を出すことはすでに規約で決まっていたがボランティア役員ではなかなか発行までには至らず今回創刊号を出すことができた。

ミネソタ会に対する活動のあり方など、ぜひ会員諸兄からよいアイデアをいただき活発な活動をしたい。



### “各地区に支部を作ろう”

名簿をみると会員が日本全国にいらっしゃるのわかります。現在、東京地区に「日本ミネソタ会」、名古屋地区に「ミネソタの星」(責任者、佐野東隆氏)がありますが、全国各地に支部(札幌、秋田、仙台、関西、……)が出来るといいですね。そして、もっとたくさんいらっしゃるはずの“ミネソタの友”を掘り起こしましょう。

### “原稿募集”

ミネソタ通信第2号の原稿を募集します。「私のミネソタ」「日本貿易摩擦」「ミネソタ会に望む」「支部作り」「日本の国際化」などタイトルに制限はありません。原稿用紙5枚以内で、発行所に送って下さい。

### “編集後記”

ミネソタ州に住んだ事のある人、ミネソタ州に関心のある人が集まって日本ミネソタ会が発足して6年。ようやく会報「ミネソタ通信」を創刊することができた。ボランティア役員の集まりで活動は必ずしも満足のゆくものではなかったが、先日の総会で新役員(新会長沖田哲也氏)も決まり今後の活動へ向けて心を新たにしている次第である。

会員の皆様の御協力をえて充実した“日本ミネソタ会”を育てたいと思う。

(幹事 遠山紘司)